

平成30年度視察研修・研修会等報告書

議席番号(2番) 議員名(藤田 欽哉)

-
1. 年月日 平成30年11月14日(水)～16日(金) (日数 2泊3日)
-
2. 場所 山口県長門市・山口県萩市・島根県浜田市
-
3. 視察・研修事項
- (1) 長門市『本庁舎建設事業の取り組みについて』
 - (2) 萩市『旧小学校跡地活用事業の取り組みについて』
 - (3) 浜田市『住民参加型市場公募地方債・浜田きらめき債の取り組みについて』
-
4. 面接者 以下に記載
-
- 5 視察研修・研修会の成果

(1) 長門市『本庁舎建設事業の取り組みについて』

面接者 長門市役所 企画総務部 総務課 庁舎建設準備室 室長 太田 哲也 様
長門市役所 企画総務部 総務課 庁舎建設準備室 主査 宇野 英樹 様

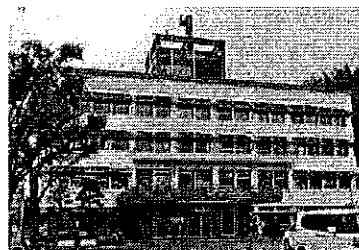
【長門市の概要】

人口35,439人、面積357.31km²、人口密度98.51人/km²

萩市と並び、山口県の北部(通称:北浦地区)の中心的都市の一つである。城下町であり行政機関の集まる萩市と比較し、道路網・鉄道網の陰陽連絡路線が発達したこともあり交通の要衝となっているが、萩市共々全国的な高速交通体系からは外れており、山陽側の都市と比べて発展が弱い。山陰地方のほぼ西端に位置し、東西に延びた地形となっている。北側は日本海に面し、外海に面した海岸線は浸食地形となっている。一方で青海島と本土に囲まれた深川湾・仙崎湾、あるいは向津具(むかつく)半島に囲まれた油谷湾などの入り江も存在し、天然の良港となっている。向津具半島は平地が少ないことから棚田が数多く存在し、最近では「海が望める棚田」として風景写真の題材として取り上げられることも少なくない。また、日置地区ではハマユウが自生し、ハマユウの自生北限地の一つとして知られる。

【市庁舎の現状】

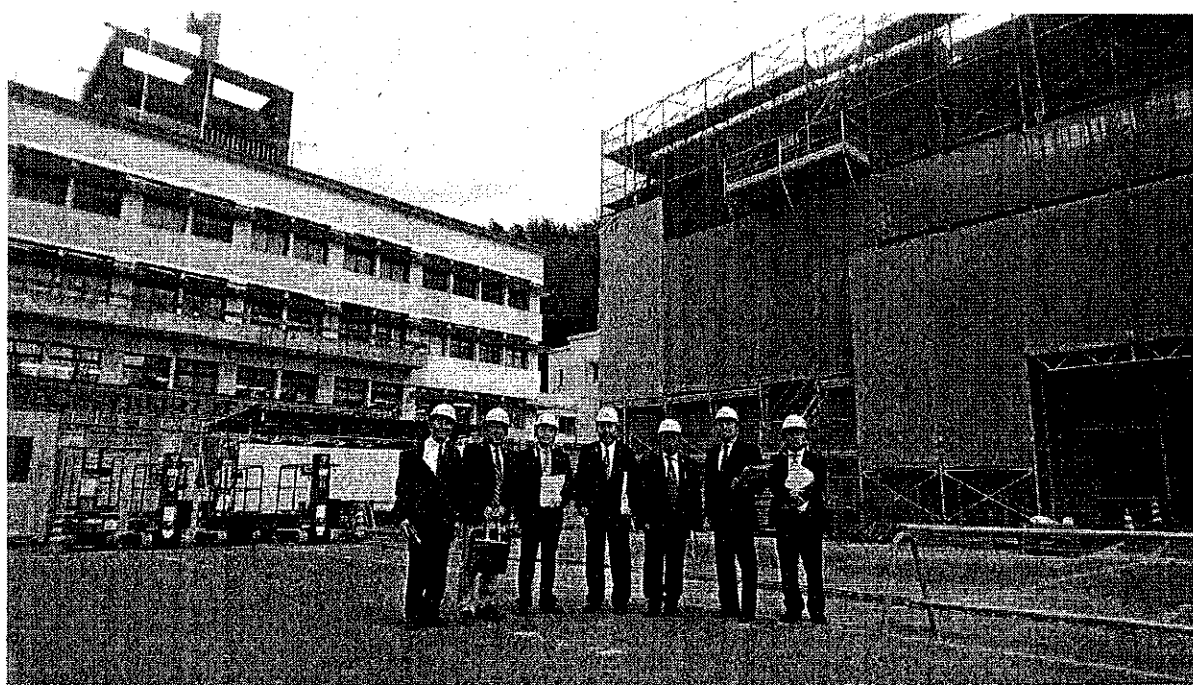
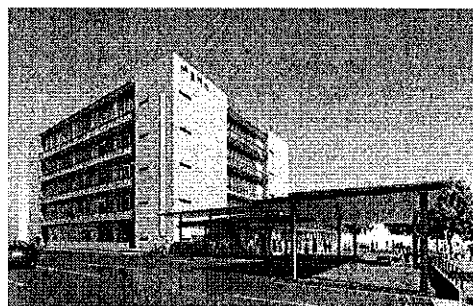
本庁舎は、昭和38年に建築され、50年以上が経過し、平成15年に実施した耐震1次診断において、Is値が最も低い箇所、X方向=0.07、Y方向=0.06しかないため大地震により倒壊又は崩壊する危険性が高いとの診断を受けており、耐震性は極めて低い状況となっているほか、施設の老朽化、庁舎内部の狭あい化や行政機能の分散化など様々な問題を抱えていた。



【長門市庁舎建設基本構想】

基本理念を「市民(みんな)の「安全・安心」の拠点として、利用しやすく親しみのある庁舎」と

定めた。具体的には、防災機能の強化等による市民の暮らしを守る庁舎、長門市らしさを発信し、機能的で効率的な構造・空間を持つ木材利用の促進も図る庁舎、人にやさしい庁舎、IT化に対応した庁舎、環境配慮型庁舎であることを目標とすることとしている。



【所感】

高度経済成長期に建設された、全国の多くの役所では建物の更新時期を迎えている。矢板市役所においても同様である。老朽化、耐震性や防災拠点としての観点からは、建て替えもやむを得ないのかもしれない。しかしながら、役所そのものの建て替えによって、市民生活の向上に繋がるとは考えにくい。矢板市役所も更新時期を迎えているが、市民のコンセンサスを得ながら、市民が納得のいく庁舎にしていかなければならないと考える。

(2) 萩市『旧小学校跡地活用事業の取り組みについて』

面接者 萩市観光政策部萩・明倫学舎推進課 課長 国光 博基 様
萩市議会事務局 局長 濱村 祥一 様
萩市議会事務局 調査係長 太田 泰之 様

【萩市の概要】

面積698.31km² 人口49,560人(平成30年10月現在)

江戸時代に毛利氏が治める長州藩の本拠地となった城下町(萩城下町)として有名である。一方を日本海に面し、三方が山に囲まれており、道路・鉄道・港湾の整備も遅かったため、山陽側の市町村と比べると発展が弱かった。山陽新幹線博多駅開業時は観光客が増加し、人口も増加するが、その後は観光客の減少と共に人口も減少した。新製の萩市として発足後の2005年国勢調査においても、人口の減少が目立ち、特に合併前の旧町村での減少傾向が目立つ。幕末から戦前にかけては政財界に関係する人物を多く出すなど、かつては中央たる東京への指向が強かったが、近年では、進学・就職なども九州本島への指向が強い。司馬遼太郎の幕末小説である『世に棲む日日』『花神』や、大河ドラマ『花燃ゆ』は萩市が舞台になっている。萩市中心部は、日本有数の規模を誇るデルタ地帯に発展している。旧・川上村から流れる阿武川(あぶがわ)は川島地区で2つに分かれ、橋本川と松本川となって日本海に注ぐ。また、両河川からは新堀川、藍場川といった小河川が分岐し、市街を流れている。

【旧明倫小学校学舎の概要】

萩藩校明倫館は、1718年に5代藩主である毛利跨吉元が家臣の子弟教育のために萩城三の丸に建てた藩校。その後1849年に現在の江向に移転。約5万m²の敷地内に学舎や武芸修練場、練兵場などがあり、吉田松陰や楢取素彦(小田村伊之助)が教鞭をとったことでも知られている。



萩藩校明倫館は1867年に廃館となったが、その跡地に1935年10月10日に建築されたものが旧明倫小学校の木造2階建ての校舎で、1996年に国登録有形文化財に登録されている。2018年に明治維新150年を迎えることを記念して、この校舎を萩市の新しい観光の起点となるよう改修整備したものが萩・明倫学舎となる。

【明倫学舎の概要】

萩・明倫学舎は本館、2号館、周辺の遺構などから構成され、本館には観光インフォメーションセンターや萩の名店「割烹千代」がリーズナブルな価格で料理を提供するレストラン、ジオパークビジターセンター、復元教室、復元校長室などを備える。

2号館には2015年7月に世界遺産に登録された萩市の5資



産を含む「明治日本の産業革命遺産」を紹介する「世界遺産ビジターセンター」、幕末維新期の歴史・科学技術史の実物資料を展示する「幕末ミュージアム」を開設する。

【所感】

人口減少や少子高齢化により廃校になる学校跡地の利活用の問題は、全国自治体において大きな課題となっている。矢板市においても西小学校が廃校になるが、今後の有効な活用が求められる。明倫小学校の場合は、廃校によるものではないが、廃止校舎の活用という点では大いに参考になった。西小学校においても、地域社会と連携した活用方法を考えていかなければならないと痛感した。



（3）浜田市『住民参加型市場公募地方債・浜田きらめき債の取り組みについて』

面接者 浜田市財務部財政課財政係 主任主事 羽部 和哉 様
浜田市財務部財政課財政係 主任主事 小澤 杏子 様
浜田市議会事務局庶務係 係長 鎌原 浩治 様

【浜田市の概要】

面積 690.68km² 人口 58,105人（平成29年10月1日現在）

平成17年10月1日に、浜田市、金城町、旭町、弥栄村、三隅町の5市町村が合併し、新「浜田市」が誕生した。

全国に誇れる海、山などの美しい自然と、石見神楽やユネスコの無形文化遺産に記載された石州半紙などの伝統文化、海水浴場、スキー場、しまね海洋館アクアスなど豊かな自然を活かした観光資源を有しており、また、高速道路、港湾などの都市基盤や大学、美術館をはじめとする教育文化施設が充実した、人と文化と自然の調和のとれた島根県西部の中核都市である。

島根県西部の日本海を望む位置にあり、東は江津市、邑南町、西は益田市、南は広島県に隣接している。浜田市の大部分が、丘陵地や山地で、中国山地が日本海まで迫り、また、切り立ったリアス式地形と砂丘海岸の織り成す海岸線は、優れた自然景観と天然の良港をもたらしている。

【浜田きらめき債とは】

市民から市の事業を行うための資金を募る住民参加型市場公募地方債である。「浜田きらめき債」の発行により集めた資金は、満期に達するまで基金で運用した後、未来を担う子ども達の育成のための子育てや教育の充実に使われることになっている。

【住民参加型市場公募地方債とは】

地方債の個人消化、資金調達が多様化、住民の地域参画意識の高揚を図るために2001年（平成13年）度から導入された。その趣旨から、当該自治体の住民等を対象とし、防災や福祉・教育施設など地域住民の事業への参画意識が高まるような事業に充当するのが望ましいが、発行対象及び対象事業を特に限定する必要はない。形態として、証券発行、満期一括償還を原則とし、地元金融機関がいったん引受け、その後応募者に販売されている。一般に、自治体の名称等の愛称を付すことが多い。表面利率、発行価格、期間、発行のロットなどの発行条件は一定しないが、利率は新発国債の応募者利回りに若干上乗せした利率とするものが多いが、「ふるさと」あるいは「地域」への貢献を名目に国債を下回る利率とするものも現れている（福井県の「ふくいふるさと債」など）。

□住民参加型市場公募地方債メリット

市政参加意識の高揚、施策のPR、観光客の増加、地域の活性化

□住民参加型市場公募地方債デメリット

発行に係る事務量の増加、各種手数料、スプレッド、ポスター・パンフレット作成

【所感】

住民参加型市場公募地方債には上述の通り、メリット・デメリットが存在し、一概にその善し悪しを判断することは大変難しい。しかしながら、市民の政治参加への意識付けという観点からは大変意義深いと思う。ふるさと納税制度やクラウドファンディングなど、昨今は多様な制度が存在しているが、矢板市においても、そういった情報を敏感に察知し、今後調査研究していくべきであると考え

